

苦しむ中小業者への継続的な直接支援を 決断し、今こそあたたかい市政へ

9月24日に神戸市決算特別委員会がひらかれ、日本共産党神戸市議団の西ただす議員が総括質疑に登壇しました。

質疑項目

1. コロナ禍で苦しむ中小業者への支援について
2. 市民の命を守る保健師の増員について

決算議会を通して、日本共産党神戸市会議員団は、なによりも、市民の命とくらしを守る神戸市政への転換を求めてきました。

新型コロナウイルスの発生から2年近く、中小業者の経営はますます悪化してきています。決算委員会で神戸市は、「経営が厳しい事業者に対する支援策」をおこなって

いると述べましたが、今の深刻な状況に見合った補償とは全くなっておらず、多くの事業者が休業や廃業に追い込まれています。

西議員は、新型コロナウイルスの長期化により追い詰められている中小業者の経営を補償するための市独自の新たな直接支援を求めました。

西議員が総括質疑



のあらわれだ。国や県を補完できず、支援に穴が空いたままだ。

今西副市長：他都市に先駆けて支援してきた。どういった事業者が救われていないのかはわからないが、事業者の声を聞いていないということは決してないと断言する。

西議員：声を聞いているのに対策ができていないなら、より問題だ。今回の支援も期間が短く一過性だ。今必要なのはコロナ危機を乗り越える

ための継続的な支援だ。

今西副市長：少ない費用で多くの効果がある施策を考えた。

西議員：もっと大規模に支援しようとする姿勢が足りない。もともと体力のある誘致企業には優遇し、地元で頑張る中小業者には直接支援せず見殺しにしている。市長はどこを向いて市政運営をしているのか。今こそ市長の決断で支援すべきだ。

答弁ダイジェスト

今西副市長：国県の施策を補完的におこなっていくことが重要。総合的に活用してコ

ロナ禍を乗り切ってほしい。

西議員：2年近くも救われていない事業者がいるのは、中小業者を大事にしない姿勢

行財政改革は見直し、命の最前線に 立つ保健師の抜本的増員を！

神戸市はコロナ前、人員削減を続け政令市において人口比で最も保健師が少ない自治体となりました。そのもとで、令和4年4月にかけて300人体制にするとしています。しかし、常に新型コロナウイルス感染拡大防止の最前線に立ち、長時間過密労働で働かれている保健師の方の現状からも、自宅療養者への対

応やPCR検査など必要な対応が進められていない状況からも、300人体制では人員が足りないのは明らかです。ところが、市長は「デジタル化で業務が効率化できる」と、これ以上の増員を否定しています。西議員は、こうした姿勢を転換し、市民の命を守るために保健師の抜本的な増員を進めるべきと質しました。

答弁ダイジェスト

小原副市長：即戦力となるよう積極的に採用してきた。

西議員：自宅療養523人のうち、訪問できたのは157件だ。保健師が足りていないからではないのか。

小原副市長：ワクチン接種がすすんだので対応できている。保健師や看護師は限られた人材資源だ。有効に活用しながら波を乗り切っていく。

西議員：学校では検査キットを配布し感染の有無の確認を任せていると聞いた。専門

職が足りていないからではないのか。さらに増やそうという意思はあるのか。

小原副市長：職員を増やすのは大変だ。非常勤や会計年度職員も活用する。

西議員：会計年度職員は経験が残らず、安定して雇用できない。震災以降、歴代の市長が現場を見ずに職員を削減してきた結果が今の保健師の状況につながっている。人員削減や行財政改革は見直すべきだ。

9月13日

プラスチック問題に神戸市として積極的に取り組め!

環境局審査で山本議員



質問する山本じゅんじ議員

近年、海洋マイクロプラスチック問題をはじめプラスチックによる地球環境への深刻な影響が次々と明らかとなっています。政府は2019年プラスチック資源循環戦略を策定。今年6月にはプラスチック資源循環促進法が制定され、自治体としてもプラごみ対策への積極的な取り組

神戸市はこれまで中小業者への直接支援には背を向け、融資の条件緩和などで対応してきました。コロナ感染が猛威をふるい緊急事態宣言が続く中、先の見通しが立たず、中小業者はさらなる資金繰りを必要としています。しかし、保証協会も銀行も政策金融公庫も貸し渋りと言える状態になっており市内の中小業者が悲鳴をあげています。林議員は、中小企業に寄りそわない市の姿勢を厳しく質し、事業者が経営を継続できるような支援を求めました。

9月16日

技術の継承や安全確保のためにも運転士の正規採用を計画的に増やせ

交通局審査で大かわら議員



質問する大かわら鈴子議員

神戸市の市バス運転士の年齢構成をみると、174人中90人が55歳から60歳、40歳以下は2割程度と年齢に大きな隔たりがあります。(右図参照) これはこれまで取り組まれてきた経営計画2020で、一貫して総人件費の削減、業務縮小、民間委託など経費削減が優先され、計画的に運転士の採用をしてこなかった結果です。

決算特別委員会審査から②

1. 地球温暖化防止について
2. プラスチック問題について
3. アスベスト調査洩れについて

質疑項目

みがますます問われることとなります。
山本議員はプラスチック問題の根本的な解決には、徹底した発生抑制が必要と指摘し、法整備などが進んできており、神戸市としても目標を持ってプラごみ削減に計画的に取り組むよう求めました。
また、事業系ごみでプラスチックは燃えるゴミとして処理されている問題について、実態を把握し減らすよう計画と対策をもとめました。

答弁ダイジェスト

浜本副局長:しっかりと取り組んでいきたい。(プラスチック)新法ができたが詳細が明らかになっておらず、まだ計画を立てる段階にはなっていないと思っ

1. 中小企業への支援について
2. 融資と事業転換支援について
3. 産業育成路線について

答弁ダイジェスト

林議員:市はこれまで「どんどん借りてください」という姿勢だったが、今になって「赤字のところには貸さない」と言われ断られている。コロナ禍で経営が黒字に転じている事業者がどれほどあるのか。
豊永副局長:資金需要は落ち着いてきている。融資の判断は金融機関がすることだ。
林議員:職員が訪問しているなら、銀行がなぜ貸さないのか聞いているはず。なぜ事業者に寄りそわず、今になって梯

1. 公営交通の意義、役割について
2. バス運転士の人材確保について
3. 交通振興の解散について
4. データにもとづく持続可能なバス路線について

質疑項目



その上、運転手不足を補うため非正規の短時間勤務の運転士を配置し人件費の削減を行っています。本来公営交通は、市民の足の確保にとどまらず、神戸市の施策と連携して街づくりへの寄与、地域社会への貢献、福祉的配慮等、多面的な役割を果たすことが求められています。大

ている。課題が多く一足飛びにはいけませんが、回り続けるリサイクルを展開し、思いを同じくする事業者ともいろんな取り組みをやっていきたい。

山本議員:難しいのはわかるがあえて目標をたててやってほしい。プラスチックの利点はあるが、廃棄量の6割は焼却され、地球温暖化防止の観点からも好ましくない。プラスチック自体を減らしていかないと意味がないという状況にまできている。国の示した一定の数値目標に向け整合性を持たせたいというのなら、神戸市として目標をつくるべきだ。

9月14日

中小業者がコロナ禍乗り切れる支援を経済観光局審査で林議員



質問する林まさひと議員

子を外すようなことをするのか。
西尾局長:市の限られた財源の中で支援している。
林議員:中小企業は潰れても仕方がないと思っているかのような責任のない答弁だ。諦めずに頑張らせてほしいということを事業者に伝え財源も確保して支援すべきだ。

かわら議員は、技術の継承や事業の安定性、安全確保のためにも運転士の正規採用を計画的に増やすよう求めました。

答弁ダイジェスト

大かわら議員:今後毎年大量の退職者が出る。アンバランスな年齢構成がなぜこれまで是正されなかったのか。
習田副局長:非常に厳しい経営状況で、新規採用を凍結していた時期があった。たしかに年齢にアンバランスはある。今後考えないといけない問題と認識している。効率的な経営をいかに行うか、民間の力を借りて可能な限りダイヤを守る。
大かわら議員:効率化だけで済ませてはいけぬ。市民の命にかかわる事業をされている所なので民間だのみでなく、誰もが安心して便利に利用できるようにすべきだ。